

# 平成30年度 自己評価結果

ひらやす保育園

## 1. 保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

## 2. 保育方針

本園の教育・保育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

## 3. 保育目標

- ①情緒が豊かで明るい子ども
- ②よく考え、進んで行動する子ども
- ③仲良く遊び、協力し合う子ども
- ④身体が丈夫で逞しい子ども

## 4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ・保育所の特性を活かした保育の質の向上と保護者支援の充実
- ・仕事の効率化を図る

## 5. 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	備 考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた保育園の運営状況	B	
(2) 保育園の状況を踏まえた保育目標等の設定状況	A	
(3) 保育園の保育課程、保育方針について保育士間の共通理解	A	
(4) 保育園行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	A	
(6) 遊具・用具の活用	A	
(7) 保育士間の協力的な指導の状況	A	
(8) 乳幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	A	
(9) 保育所保育指針の内容に沿った乳幼児の発達に即した指導の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を通して行う保育の実施の状況</li> <li>・乳幼児との信頼関係の構築の状況</li> <li>・乳幼児の主体的な活動の尊重</li> <li>・遊びを通しての総合的な保育の状況</li> <li>・一人一人の発達の特性に応じた保育の状況</li> </ul>	A	
(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断実施状況	A	

(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	B	
(12) 法定の安全計画や防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	A	
(14) 安全点検や、保育士の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	B	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	A	
(17) 管理職の保育目標等の達成に向けたリーダーシップの況、また、多くの保育士からの信頼の状況	A	
(18) 保育園の明確な運営・責任体制の整備の状況	B	
(19) 各種文書や個人情報等の保育園が保有する情報の管理の状況、また、保育士への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	A	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	A	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	A	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	B	
(25) 指導が不適切である保育士の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 保育目標の設定と自己評価の実施状況 ・乳幼児や保育園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた保育園としての目標等の設定の状況 ・目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・自己評価の結果の設置者への報告と状況	A	
(27) 保育園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・保護者の満足度の把握の状況 ・保育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A	
(28) 保育園に関する様々な情報の提供状況	B	

(29) 保育園公開の実施の状況	A	
(30) 乳幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 自己評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	A	
(34) 保護者の実情や要望による保育園の子育て支援活動の実施状況	B	
(35) 園や保育士による受け入れ体制の状況	A	
(36) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況	B	
(37) 遊具・用具・図書等 ・遊具・用具・図書等の整備状況 ・保育環境の充実のための取組状況	A	

## 6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結 果	理 由
A	<p>・<b>保育所の特性を活かした保育の質の向上と保護者支援の充実</b> 改訂された保育所保育指針を全職員で共通理解し、一人ひとりの発達過程を常に共有していくことで個々に応じた保育をすることが出来た。</p> <p>感覚機能が著しく発達する0歳児、1歳児の時期に、食育活動を充実させ、食への興味が高まる事を目指した。食べ物への関心、食欲が増すことで運動機能も向上し、言葉の理解や発語の意欲にも繋がった。</p> <p>保護者からご意見は真摯に受け止め、問題解決に努めた。保護者と話をする時間が十分に取れないこともあり、連絡帳や掲示物で子ども達の様子を伝えられるよう心掛けた。</p> <p>・<b>仕事の効率化を図る</b> 全職員が事務業務時間を厳守し、互いの仕事の進捗状況を把握し、声を掛け合う事で効率良く保育準備を進められた。</p>

## 7. 総合的な評価結果

- ・園外研修から学んだことを、園内研修を通し、全職員で共有することで、実践力が高まった。
- ・一人一人の援助を保育計画を基に明確にし、職員で共通理解することで一貫した保育ができた。
- ・園での様子を伝えられるよう考慮したが、保護者の悩みや相談の場を設ける時間が少なかったよう

に感じた。

#### 8. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の質の向上	発達に沿った運動遊び・外遊びの中で、5感を刺激し、自発性を育むような保育を展開する。
保育環境の整備	衛生面・安全面に加え、0歳児、1歳児の発達を促すための保育環境作りを心掛ける。 遊具・玩具の見直し
保護者支援	保護者が相談しやすい場を設け、子どもの情報を共有し、連携した子育てを目指す。

#### ◎「4. 5. 6」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である